

“第14回 国際交流フェスタ in くれ”に参加

広島県呉市は2016年3月に新庁舎を建設し、運営・使用を開始しました。

http://www.city.kure.hiroshima.jp/uploaded/life/17689_20411_misc.pdf

呉市は米国、韓国及びスペインと姉妹都市の締結を結んでいます。昨年は米国ワシントン州ブレマトン市との姉妹都市締結45周年を迎え、市長さんをはじめ13名の方が来呉されました。ブレマトン市の方々をお迎えするに際してボランティア通訳の募集があり、応募してこの記念行事に参加させていただきました。

これを機にブレマトンの市民の方々と交流が生まれました。ひろしまね園芸福祉協会が発案し、既に呉市立中央図書館に寄付したり、各種イベントで配っている椿の押し葉で作る葉などを交換留学生に託してブレマトン市の人々に手渡していただいたりしていました。昨年末に呉市役所国際交流センターから電話をいただき、2017年2月19日には新庁舎では初めての“第14回国際交流フェスタ in くれ”を開催するので、椿油のポップコーンを出店して欲しいとの依頼を受けました。



写真—1 10年前のつばき祭り@旧市役所1階ロビー

今年は、くしくもひろしまね園芸福祉協会が2008年に呉市役所で初めて開催させていただいた「呉・椿プロジェクト」から丁度10年目になります。事情により市役所での開催は2011年以降開催できなくなりましたが、毎年野呂山学園(<http://www.norosangakuen.or.jp/>)の学園祭や各種イベントで“椿油のポップコーン”を続けてきました。今回の会場は新しくできたばかりの大きな市役所のロビーでの開催となり、しかも昨年の第13回フェスタには500名くらいの来場者があったとのこと。少し緊張しましたが、何とか準備もでき開催に間に合わせることができました。当初からこの活動に協力いただいている友人の平野正彦氏やこれまで各種イベントごとに協力いただいている園芸福祉士の西田素子さん、西田千鶴さん、瀬戸口淳子さん、そしてひろしまね園芸福祉協会代表の小田原裕紀氏にご協力いただいて当日は10時ころから準備にかかりました。

受付開始は12時30分でしたが、準備中のポップコーンのいい香りに誘われて多くの方が我々のブースに来てくださって、できたてのポップコーンをほおぼっておられました。私たちの隣のブースはブラジルの方がガラナの試飲をするコーナーを開いておられ、おいしいガラナをいただいたり、季節の話をしたり、椿が呉市民の花であることをお話したりして楽しく交流できました。13時の開場を待たずにどんどん多くの方が市役所を訪れてきました。この日は少し寒かったのですが、ロビーは心地よい空調と来場者の熱気で活気が満ち溢れていました。年齢も小さな幼児からお年寄りまで、また、国籍もカナダ、アメリカ、アイルランド、フィリピン、ベトナム、ペルーなど本当に国際色豊かで、色んな言語が飛び交っていました。

呉市で暮らす外国人3年メルガレホ・ネットと市民が集う「国際交流フェスタ in くれ」が19日、市役所であり、約600人が親睦を深めた。

ステージでは、外国人英語指導助手(AI)と技能実習生、大手の3人が母国との文化の違いなどを日本語でスピーチ。11歳の時にペルーから呉市に移り住んだ広島国際大

呉で外国人と市民交流

3年メルガレホ・ネットと市民が「国際交流フェスタ in くれ」が19日、市役所であり、約600人が親睦を深めた。

ステージでは、外国人英語指導助手(AI)と技能実習生、大手の3人が母国との文化の違いなどを日本語でスピーチ。11歳の時にペルーから呉市に移り住んだ広島国際大

(浜村満大)

母国を紹介 異文化体験



呉・東広島

20日の地元の新聞中国新聞には上のような記事も掲載されていました。会場では各国の文化を紹介する体験コーナーや日本のお茶席もありました。私たちのブースは絆ホールの真ん前でしかも一番広くスペースをいただいたようでした。



私たちが提供したポップコーンは地元呉市郷原で栽培した無農薬のトウモロコシを乾燥して作ったコーンや地元蒲刈の海人の藻(<http://www.moshio.co.jp/>)、そして国産の椿油を使ったスペシャルなポップコーンです。パネルには姉妹都市ブレトン市との交流を示すポスターを貼り、来られた方々にはここでしか味わえない特別なポップコーンであることをご説明しました。また、椿の葉も先着50名の方に無料提供して皆さんとても感激していただきました。

国際交流センターからは250名分の材料を準備しておくようご指示をいただきましたが、13時を過ぎて間もなく250名分はあっという間になくなりました。予備にと思って用意していた50名分もなくなり、結局およそ300名の方に特別な“椿油のポップコーン”を味わっていただきました。展示物には園芸福祉の和文、チラシや英文の解説書もそろえておきましたが、アイルランドやカナダの方はこの英文解説書を読んで領いておられました。また、日本の女性が展示机に飾っていた椿の折り紙にとっても興味をもっていただき、国際交流センターにあった色紙を急遽5名枚ほどいただいて、おり方を教えて差し上げました。初めての新庁舎での国際交流フェスタでしたが、本当に楽しく、素晴らしい交流ができました。

2007年から始めた「呉・椿プロジェクト」も今年で11年目になりました。関係各位のご協力を頂きながらこれからも呉市民や海外の方々とも交流を深めて呉の良さ、植物との楽しいふれあい、椿が絆になれることを実践し、楽しんでいきたいと思っています。



(文責:広ひろしまね園芸福祉協会 進藤文典)